

WHO ファクトシート

コレラ

Cholera

2017年12月

重要な事実

- ・コレラは、急性の下痢性の疾患であり、治療しなければ数時間内に死亡することがある。
- ・世界では毎年130万～400万の症例があり、2万1000～14万3000人がコレラにより死亡していると研究者たちは推計している。(注1)
- ・ほとんどの感染者は症状がないか、あっても軽度であり、経口的輸液補給の治療で治すことができる。
- ・重篤な症例では経静脈輸液と抗生物質の迅速な治療が必要となる。
- ・安全な水と衛生を確保することは、コレラやその他の水を介した感染症を減少させるために必須である。
- ・コレラ経口ワクチンはコレラ対策の追加的方法のひとつであるが、従来のコントロール手段に置き替えるべきものではない。
- ・安全なコレラ経口ワクチンは、コレラがハイリスクとされる地域でのコレラ流行制御や予防のために、水や衛生の改善と連動して使用されるべきである。
- ・コレラによる死亡を90%減少させるという目標のコレラ対策世界戦略は2017年に始まった。

(注1)

[Updated global burden of cholera in endemic countries](#)

Ali M, Nelson AR, Lopez AL, Sack D. (2015). PLoS Negl Trop Dis 9(6): e0003832. doi:10.1371/journal.pntd.0003832.

本件ファクトシートについては厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)でも全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Cholera ファクトシート原文は [こちら](#)